令和８年度入学　盛岡短期大学部　一般選抜　生活科学科　試験問題の出典

種別	専攻	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	生活デザイン		鈴木 公啓	子どものおしゃれにどう向き合う？　装いの心理学	2025 年 pp.34-36 より 一部改変	筑摩書房
	食物栄養学		朝日新聞	食のおしゃべり	2024 年 10 月 5 日付朝刊より　一部改変 承認番号　26-1284 ※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる	朝日新聞
		図１、図２	厚生労働省	令和５年度　国民健康・栄養調査結果の概要	2023 年 p11 より　一部改変	厚生労働省

令和８年度　一般選抜

短期大学部

小　論　文（90分）

学科・専攻名	ページ
生活科学科　生活デザイン専攻	1 ～ 3
生活科学科　食物栄養学専攻	4 ～ 5
国際文化学科	6 ～ 8

注　意　事　項

1　**試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。**

2　**志望する学科・専攻により問題並びに解答用紙が異なるので注意しなさい。**

3　この問題冊子は**８ページ**あります。なお，下書き用紙が２枚あります。

4　試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明，ページの脱落などがあった場合は，手を挙げて試験監督員に知らせなさい。

5　解答は，必ず**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）で記入し，ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。

6　**解答用紙（各学科・専攻別）には，氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。**

7　**解答は，必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。**

8　下書きの必要があれば，下書き用紙を利用してかまいません。

9　試験終了後，問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

生活科学科　生活デザイン専攻

次の文章を読み，あとの問いに答えなさい。

装いの心理的・社会的機能は，その方向性によって２つに分けることができます。その２つとは，「整える装い」と「飾る装い」です。装いには，スキンケアをしたり，シミを隠したり，髪を整えたり，髭(ひげ)を剃ったりと，マイナスを抑える方向で，どちらかというと消極的に作っていくという「整える装い」の方向性があります。その場合，気分が落ち着くなど，沈静化の方向に心理的な変化が生じることが多いでしょう。一方，華やかさを演出したり，かっこよさを伝えようとしたり，場合によっては，外連味(けれんみ)[注1]のある格好で独特な印象を与えようとしたり，プラスを増やす方向で積極的に作っていくという「飾る装い」の方向性もあります。その場合，気分が高揚するなど，活性化の方向に心理的な変化が生じることが多いでしょう。私たちはそのような働きを期待し，そして場面によって使いわけているのです。外出するときには，おしゃれな服装をして気分の高揚を楽しみ，家に戻ったら，ルームウエアを着てリラックスする，このようなことが日々おこなわれています。

さて，この整える装いを「身だしなみ」とすれば，飾る方向の装いが，いわゆる「おしゃれ」となります。逆にいうと，「身だしなみ」は整える装いのことを意味し，「おしゃれ」は飾る装いのことを意味して使われているといえるでしょう。なお，「おしゃれ」といった場合，そこには，審美性だけでなくその人らしさというものが含まれることがあるかもしれません。つまり，単に流行の服を着たりしているだけでなく，その人のアイデンテティ[注2]の反映として個性のある装いがおこなわれている場合も，おしゃれと言うことがあるでしょう。

子どもにおけるおしゃれも同様です。程度によりますが，子ども向けのかわいい髪飾りをつけたりかっこいいキャラクターの靴を履いたりするようなことは「おしゃれ」と言えます。そしてそれは普通は問題とされません。一方で，化粧やネイル，そして，派手であったり露出度が高かったりする服装など，これまでの社会において子どもらしくないと見なされやすい華美な装いは，問題があるとされることが多くなります。

ここで重要なのは，あくまでも後者には「子どもにはまだ早い」という価値観が含まれているということです。化粧は，大人がおこなうことは一般的です。普通におこなっている分には華美とはいわないでしょうし，わざわざおしゃれしているとも言わないと思います。しかし子どもの場合には，それが一般的ではなく，そして従来の価値観としては子どもらしくないとされるものであるため，華美と判断されるのです。そして，そこに「おしゃれ」という言葉が使われているといえます。ちなみに，子どもが日焼け止めなどを使う場合は，それは飾る装いではなく整える装いということもあり，一般的にはあまりおしゃれとは見なされないことになります。

（中　略）

おしゃれは人間にとって重要なものです。所属する社会の中で選択され用いられる数多(あまた)のツールの一つであり，そしてその集団の中で対人関係を構築して社会生活を営むうえで重要なツールの一つです。またそれだけでなく，自分と向き合う上でも重要なツールの一つでもあります。自分がどのよう

な人間であり，どのような人間になりたいのか，どのような人間であるべきかを探っていくツールでもあるのです。社会に出て行くにあたり，社会の枠を意識しつつ，その中で自分らしさを探して表出していくためにも重要なものといえるでしょう。うまく使うとコンプレックスを解消することができ，社会に積極的に向き合っていくことができるようになったりもします。

そのように考えると，子どもに広がっているおしゃれを一律でよくないものとして対処することは，乱暴な対応といえるのかもしれません。禁止することは簡単ではないことに加え，禁止により別の問題が生じる可能性もあります。安易に禁止したり制限するのではなく，どうやって適切な使用法を教えるかということを考えていく方が有益な可能性もあります。それには，家庭と学校と社会の役割が大きいと考えられます。

その際，大人からみた子どもの健全で正しい発達という観点だけでなく，子ども主体の観点からも考えていく必要があると考えられます。つまり，なぜ子どもがおしゃれをしようとしているのか，その背景にある心理を理解する必要があるということです。そのためにも，大人がおしゃれのことを知る必要があります。

（中　略）

見た目がより重視される社会になってきているようにも思われます。また，見た目の良さが重要であると煽（あお）るような社会になってきているようにも思われます。確かに，見た目を整え飾ることは大事なことでもありますが，すべてが見た目で決まってしまう世の中は不健全ですし，また，おしゃれにこだわりすぎるのも不健全です。そのような中で，おしゃれを一概に悪いものとするのではなく，おしゃれの意義を尊重しつつ，おしゃれを活用していけることが，これからは一層重要になってくるように思われます。

自分らしく，そして社会とそれなりに向き合いながら，おしゃれを楽しんでいくということは，子どもにとっても重要なことです。大人は子どものおしゃれを否定やからかいではなく受容することが大事です。場合によっては親や周りの人，もしくは社会が手助けしていくことが必要となる場合もあるでしょう。そのような環境の中で子どもが自分自身を理解して自分と今後もつきあっていけるような社会，そしてある程度の範囲でおしゃれに楽しんで取り組んでいける社会，そのような社会が望ましいように思われますが，どうでしょうか。

（鈴木公啓『子どものおしゃれにどう向き合う？　装いの心理学』，筑摩書房，2025 年，pp.34-36・220-223 より，一部改変）

注 1　外連味：見た目本位の演出。はったり。

注 2　アイデンテティ：人格における存在証明または同一性。自己同一性。

問 1　課題文では，装いの心理的・社会的機能をどのように説明しているか。80 字以上 100 字以内で答えなさい。

問 2　下線部「おしゃれは人間にとって重要なもの」とあるが，それはなぜか。本文の内容に基づいて 80 字以上 100 字以内で説明しなさい。

問 3　あなたは，「自分らしいおしゃれ」とそれがもたらす社会への影響について，どのように考えるか，作者の見解を踏まえつつ，具体的な例と理由を挙げながら 600 字以上 700 字以内で述べなさい。

生活科学科　食物栄養学専攻

次の文章を読み，あとの問いに答えなさい。

野菜摂取量が減少，その背景は

「この10年間でみると，男女とも有意に減少」。日本人の野菜摂取量に関する記述に驚きました。8月末に厚生労働省が発表した，2022年の国民健康・栄養調査の結果概要を読んでいた時のことです。

同調査は国民の栄養摂取量や身体・生活の基礎データを得ることを目的とした大規模なもの。身長体重，血圧などの身体状況，食事状況，生活習慣を調べます。今回は全国2910世帯から回答を得ました。

1945(昭和20)年に連合国軍総司令部(GHQ)の指令で行った栄養調査に始まり，70年以上毎年行われてきましたが，コロナ禍で2020年，21年と中止に。3年ぶりの調査結果がどうなるのか，注目していました。

今回の結果では1日あたりの野菜摂取量の平均値は男性277.8g，女性263.9g。いずれも，前回19年の結果より，およそ10g減っていました。前回までの数年は，野菜摂取量に大きな変化はなく，ほぼ横ばいでした。

野菜を食べる大切さは多くの人が知っているはずなのに，減少傾向になった背景は何でしょうか。

林芙美・女子栄養大学准教授は「コロナ禍を経て食事作りがより簡便になっていることが要因の1つと思われます」と話します。

林准教授らが総務省の家計調査を分析しコロナ禍での食事変化をみた研究では，コロナ禍以前と比べ20年には外食の利用が減り，家庭での食事が増えた傾向がうかがえました。ただ，冷凍食品や総菜といった調理食品の利用も増加し，21年はさらに増え，家庭での料理を簡便化する傾向もみられました。

厚労省は野菜の摂取目標量を1日あたり350gと掲げています。今回の調査結果によると，20代から40代では100g以上目標を下回っている状況です。

また，所得が600万円以上の世帯の人と比べ，200万円未満の世帯の人では男女ともに摂取量が1割ほど少ない結果でした。所得も影響がありそうです。

摂取量増加の方策は？　「情報提供だけでは限界。『食べましょう』と言われて実現できる人は限られます」と林准教授。<u>意識しなくても自然に摂取量が増えるよう食の環境整備が必要</u>と指摘します。野菜の使用量が多い弁当や総菜の品ぞろえを増やしたり，見栄えは悪くても手頃な価格の野菜を扱ったり。個々の努力のみに任せるのではなく，社会の側の仕掛けが求められています。

（『朝日新聞』，2024年10月5日付朝刊，「食のおしゃべり」より，一部改変）

問 1　下のグラフは2023年の「国民健康・栄養調査」(厚生労働省)の野菜摂取量に関する結果である。本文中の2022年の結果と比較するとどのような変化がみられたか，具体的な数値を挙げながら100字以内で述べなさい。

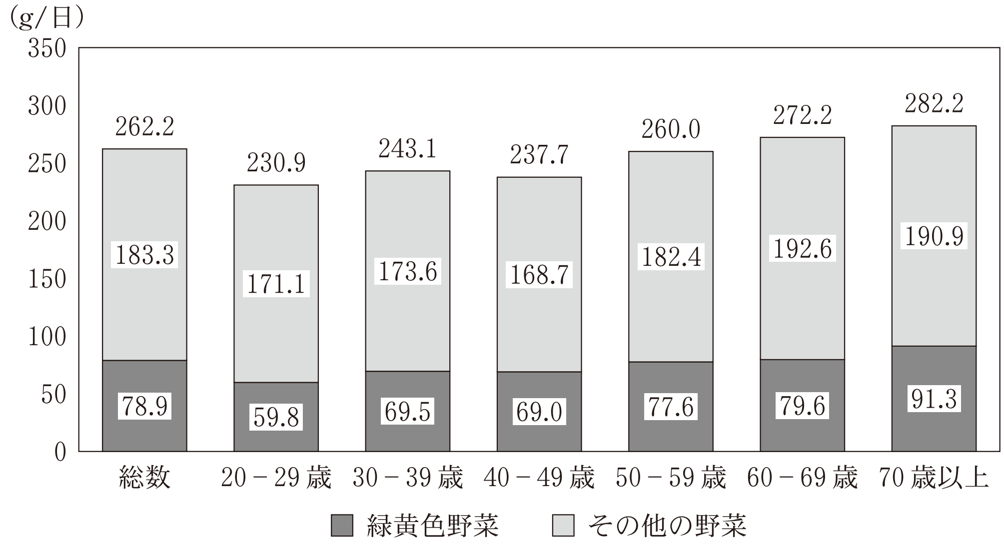

図 1　野菜摂取量の平均値(男性・年齢階級別)

(厚生労働省『令和 5 年度　国民健康・栄養調査結果の概要』，2023年，p 11より，一部改変)

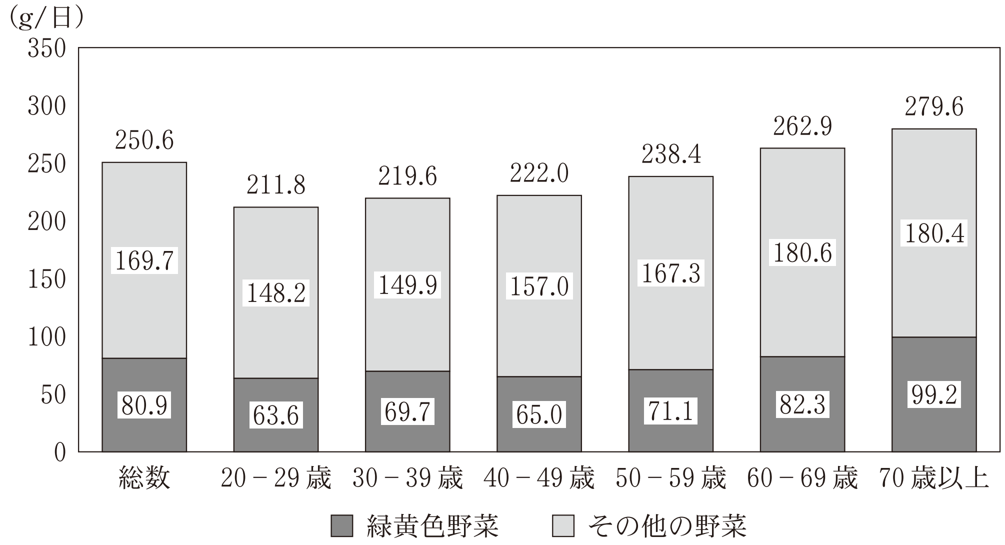

図 2　野菜摂取量の平均値(女性・年齢階級別)

(厚生労働省『令和 5 年度　国民健康・栄養調査結果の概要』，2023年，p 11より，一部改変)

問 2　下線部について，どのような取り組みを行えばよいとあなたは考えますか。あなた自身の食生活や現代の食に関する諸問題にふれながら，あなたの考えを600字以内で述べなさい。